

科目区分	統合分野	科目名	在宅看護論		
開講時期	2年次	単位・時間	1単位 15時間	講師名	非常勤講師
学習目標	1. 地域で生活しながら療養する人々とその家族を理解し、在宅における看護について理解する。 2. 在宅看護の意義と役割を理解する。				
授業の内容と方法	回	授業内容			授業形態
	1	第1章 日本の在宅看護の成立			講義
	2	第2章 日本の在宅看護をめぐる社会文化的背景			講義
	3	第2章 3・4 死のとらえ方 在宅における終末期の考え方			講義
	4	第3章 在宅看護の法的基盤 介護保険制度の仕組み			講義
	5	第3章 訪問看護制度 ケアの質と人間のニーズ			講義
	6	第3章 日本の医療事情 病院から地域へ 施設から在宅へ デンマークの医療事情			講義
	7	第3章 訪問看護ステーション 連携・チームケア・危機管理・人権			講義
	8	終講試験			
評価方法	筆記試験 100%				
テキスト	在宅看護論		<南江堂>		
	国民衛生の動向		<厚生統計協会>		
参考文献					
自己学習時間	30時間	事前・事後学習			

科目区分	統合分野	科目名	在宅看護援助技術		
開講時期	2年次	単位・時間	1単位 30時間	講師名	非常勤講師
学習目標	1. 在宅看護を展開するための援助方法と基礎的技術を身につける。 2. 生活援助用具とその利用方法を理解する。				
授業の内容と方法	回	授業内容			授業形態
	1	訪問看護のイメージと実際			講義
	2	服薬管理			講義
	3	疼痛管理			講義
	4	呼吸リハビリテーション			講義
	5	褥瘡管理			講義
	6	移動援助			講義
	7	膀胱カテーテルと排泄支援			講義
	8	口腔ケアと嚥下訓練 低栄養予防			講義
	9	退院時共同指導 グリーフケア			講義
	10	肺炎予防 経管栄養			講義
	11	感染予防 HIV/エイズ			講義
	12	腹膜透析 コミュニケーション			講義
	13	在宅酸素療法			講義
	14	テスト対策 在宅酸素療法まとめ			講義
	15	終講試験			
評価方法	筆記試験 100%				
テキスト	在宅看護論 <南江堂>				
参考文献					
自己学習時間	15時間	事前・事後学習	テキスト、配布資料の熟読および持参すること。 配布資料およびテキストでの照らし合わせの復習をすること。 図書、ビデオなどの資料を活用し、在宅看護のイメージ化して講義に臨むこと		

科目区分	統合分野	科目名	在宅で療養する対象の看護		
開講時期	2年次	単位・時間	1単位 30時間	講師名	非常勤講師
学習目標	1. 在宅看護を展開するための方法を理解する。 2. 社会資源を活用し、他職種と協働する中での看護の展開を理解する。				
授業の内容と方法	回	授業内容			授業形態
	1	退院支援のあり方と看護職どうしの連携			講義
	2	チームケアとマネジメント			講義
	3	在宅看護と他職種の連携			講義
	4	保健師活動と訪問看護の連携 災害対策と災害時の連携			講義
	5	1.病態・病状の変化の予測と自立支援 ～3.在宅療養と家族支援			講義
	6	在宅における看護過程の展開 在宅看護における倫理的課題			講義
	7	要介護者高齢者への在宅看護 認知症高齢者への在宅看護			講義
	8	疾病や障害をもつ小児への在宅看護 精神疾患をもつ療養者への在宅看護			講義
	9	退院前カンファレンスの実際 グループワーク			講義 グループワーク
	10	退院前カンファレンス発表の準備			講義
	11	在宅看護退院前カンファレンスグループ発表 ・要介護高齢者・認知症高齢者・慢性感染症の療養者			グループ発表
	12	・神経難病の療養者・終末期の療養者・がんの療養者			グループ発表
	13	・難病や障害をもつ小児・精神疾患をもつ療養者			グループ発表
	14	全体のまとめ			講義
15	終講試験				
評価方法	筆記試験 100%				
テキスト	在宅看護論 <南江堂>				
参考文献					
自己学習時間	15時間	事前・事後学習	テキスト、配布資料の熟読および持参すること。 配布資料およびテキストでの照らし合わせの復習をすること。		

*この科目は実務経験のある教員による授業科目です。

科目区分	統合分野	科目名	在宅看護論演習		
開講時期	3年次	単位・時間	1単位30時間	講師名	専任講師
学習目標	1. 様々な事例から、状態に応じた看護を理解する				
授業の内容と方法	回	授業内容			授業形態
	1	1. 在宅における看護過程の展開 2. 演習オリエンテーション			講義
	2・3 4	3. 看護過程の展開 1) 事例の理解 2) 調べる 3) 情報の整理			講義 グループワーク
	5	4) アセスメント 看護診断の方向性まで抽出する			グループワーク
	6・7	5) 事例発表 意見交換・討論			演習
	8・9	10) 事例の見直し(追加・修正) 11) 看護診断・看護計画			講義 グループワーク
	10 11	12) 訪問看護計画書作成(ロールプレイ)			講義 グループワーク
	12 13	13) 訪問計画書に基づいた訪問の実際 ディスカッション・評価(訪問時のマナー)			演習
	14	14) 看護過程展開の事例発表 意見交換・討論			講義・演習
	15	まとめ 筆記試験(45分間)			講義・試験
評価方法	1. 筆記試験90% 2. グループワーク参加状況10%				
テキスト	在宅看護論：南江堂 看護診断ハンドブック 第10版：医学書院				
参考文献	在宅看護論：医学書院 在宅看護論Ⅰ・Ⅱ：日本看護協会出版 地域医療を支えるケア・在宅療養を支える技術：メディカ出版 在宅看護実習ガイド：照林社 在宅看護学：医歯学出版株式会社				
自己学習時間	15時間	事前・事後学習	在宅看護援助技術・看護を復習して講義に臨む 課題が提示された場合は、事前に調べ期限内に提出する		